

東京港第9次改訂港湾計画に向けた調査検討委員会（第2回）

議事概要

1 日 時

令和4年11月15日（火）13時15分から15時15分

2 場 所

新宿NSビル30F ルーム3・4（オンライン併用）

3 出席者

別紙のとおり

4 議 事

- (1) 今後の検討スケジュール
- (2) 外内貿コンテナの検討

5 議事概要

- 事務局から今後の検討スケジュール、外内貿コンテナの検討の内容について説明を行った。
- 委員会に出席した委員から、以下の意見が示された。
 - ・ コンテナ貨物量の推計やコンテナふ頭の施設計画は概ね妥当である。
 - ・ 近年は情勢変化が激しく、以前に比べて将来の予測が難しくなっているので、情勢の変化に柔軟に対応できる計画にしていくべきである。
 - ・ 基幹航路、東南アジア航路、中国航路ともに、船舶大型化はさらに進行すると想定されるので、将来を見据えた施設計画にすべきである。また、なるべく柔軟な運用が可能となるよう、できるだけ連続的に岸壁を整備することやヤードを十分に確保することが必要である。

- 基幹航路を維持・拡大していくためには、ハード対策はもとより、他のアジア諸港よりもサービスレベルを向上させ、荷役等の待ち時間が少なく、使いやすい港にしていくことが重要である。
- 利便性が高く使い勝手の良い港にしていくため、ハード施策に加えて、ターミナルの一体利用や最先端技術の活用等、運営の仕方により効率性を上げるなどのソフト施策についても港湾計画に記載していくべきである。
- 増大するコンテナ貨物や、トラックドライバーの2024年問題などに対応していくため、東京港と背後の生産地や倉庫等へのトラック輸送について、モーダルシフトやDXの活用による効率化も検討していくべきである。
- 新規ふ頭を計画する際には、船舶が安全かつ効率的に離着岸できるように、考慮してほしい。

以上

東京港第9次改訂港湾計画に向けた調査検討委員会(第2回)

出席者名簿

令和4年11月15日(火)

(敬称略・順不同)

職	区分	氏名	所属・役職	出欠 (代理出席者)
委員長	学識経験者	大脇 崇	公益社団法人日本港湾協会 理事長	出席
副委員長		根本 敏則	敬愛大学経済学部 教授	出席
委員	学識経験者	水庭 千鶴子	東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授	欠席
		二村 真理子	東京女子大学現代教養学部 教授	オンライン
		柴崎 隆一	東京大学大学院工学系研究科 レジリエンス工学研究センター 准教授	欠席
		鶴岡 純一	一般社団法人東京港運協会 会長	出席
	港湾利用者	山崎 元裕	東京倉庫協会 会長	出席
		宇佐美 和里	一般社団法人日本船主協会 常務理事・企画部長	オンライン
		多田 正博	日本機械輸出組合 部会・貿易業務グループリーダー	出席
		栗林 宏吉	日本内航海運組合総連合会 会長	出席
		黒田 富治	東京湾水先区水先人会 副会長	出席
		福岡 淳一	一般社団法人東京都トラック協会 海上コンテナ専門部会 部会長	出席
		中井 拓志	オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社 代表取締役社長	出席
		松川 一裕	株式会社ダイトーコーポレーション 代表取締役社長	出席
		関係官庁	目黒 哲巳	財務省東京税関監視部長
	森橋 真		国土交通省関東地方整備局 港湾空港部長	出席
	加藤 絵万		国土交通省関東地方整備局 東京港湾事務所長	オンライン
高橋 信博	国土交通省関東運輸局 交通政策部長		オンライン	
高橋 亮司	海上保安庁第三管区海上保安本部 東京海上保安部長		オンライン (中橋 一郎)	
坂倉 英一	警視庁交通部交通規制課長		出席 (藤平 忠晴)	
オブザーバー		山本 貴弘	国土交通省港湾局計画課 港湾計画審査官	出席